

Voice of Student

Q 研究室を選んだ理由は？

A 私は東京大学で過去の気候変動や海水準変動を学んでいました。博士課程へ進学するにあたり、熱帯のカルストと海水準変動との関係を追求したいと思い、地形学で沖縄をフィールドにしている菅先生の研究室を志望しました。

Q 現在、何の研究をしていますか？

A 南大島の洞窟で世界で例の少ないタイプの鍾乳石の形成メカニズムを解く研究を進めています。メカニズムがわかれれば、私たちの知らなかった環境の説明ができるだけでなく、新しい事例を発見することにもつながると考えています。

Q 研究室の魅力は？

A 電子顕微鏡やX線回折装置など、素晴らしい機器類が揃っています。さらに、学内では英語の授業やワークショップも多くあり、いろいろな刺激を受けることができます。

Q 高校生にメッセージをお願いします

A 身のまわりや国内だけを見るのではなく、冒險して欲しいですね。そうすれば、新しい世界が広がるし、今までの世界が小さかったことに気づかされます。若いうちにどんどんチャレンジしてください！



大学院 地球社会統合科学府
ブラッシュ・ミクラビッチ
Blaž Miklavčičさん

University data

学府の先輩たちの主な進路先

外務省、福岡県、京都府教育委員会、久留米市、九州大学、福岡大学、北九州工業高等専門学校、広島経済大学、筑紫女学園中学校高等学校、中国西安外国语大学、廣東外語外資大学、安徽師範大学、吉林建筑大学地建学院、日本電気、小松製作所、マツダ、JFEスチール、東京コンサルティンググループ、三井住友信託銀行、ワークスアブリケーションズ、アクセンチュア、ニトリ、アルファ、他。

九州大学 大学院 地球社会統合科学府／共創学部

国福岡市西区元町744番地

<http://www.kyushu-u.ac.jp>



野外調査にもどんどん挑戦して欲しいと菅先生。東京大学や琉球大学など、全国各地の大学と共同研究しながら視野を広げられるのも同研究室の魅力だ

フィールド調査では未知なる発見と遭遇するドキドキも！



Profile

kan hironobu

菅浩伸先生

九州大学大学院主幹教授。サンゴ礁地形とその形成史、熱帯浅海域の環境変遷史に関する研究を中心にマルチビーム測深機による高精度三次元海底地形測量やスクーバ潜水等による地形研究など、多くの調査・研究を実施。

科学を探求し、新しい未来をつくる想像を超える発見にワクワクしよう

Kyusyu University

平成30年4月に新設された共創学部で浅海底地形を研究する菅先生にその魅力や面白みを聞いてみよう！

菅先生の研究内容について教えてください。
自然地理学を研究しています。地理学とは、地面の上にあるものすべてを対象とする学問です。地質学的、生物学的、政治学的、経済的な要素を細分化して見るのはなく、全体をまとめて見ようというのがあります。それが共創学部の目標すとこだ。その中でも、浅海底地形の分野で注目を集める菅研究室を訪ねた。

菅先生が指している研究です。具体的にはどんな研究を行なうのですか？
海底の地形を三次元で計測できるマルチビーム測深と呼ばれる技術を用いて、小型船で浅海底を詳細に調査しています。例えば、以前から海底地形の研究が盛んに行なわれてきたグレートバリアリーフでも、60mより深い海域は未調査のまま。そこを埋めるために私たちの調査技術が役に立ちます。沖縄の島々で毎年調査を進める中、石垣島の名蔵湾の海域で、研究者も地元の方々も知らないなか、日本最大級の沈水カルスト地形を発見しました。そして、そこには誰もが予想しなかった大規模なサンゴ群集が生息していることも明らかになりました。人口約5万人が暮らす島の人里に近い沿岸域でも科学的に明らかにされていないことがわかります。このように海底の詳細な地形情報を得られることによって、先進的な研究を生み出すことができる

情報を得ることができます。ただし、海底には陸上のような詳細な地図はありません。深海は資源調査などでも浅海底にどのような地形ができるかという説明はされていません。地球上では約10万年周期の氷期・間氷期サイクルとともに海面が約130m上がったり、下がったり繰り返しています。現在は温暖で海面が高い間氷期ですので、過去の海岸や低地の痕跡は現在の海面下にあります。もちろん、そこで暮らしていた人々もいたはずです。その痕跡を探し、浅海底の地形学という新しい分野をつくっていこうというのが、私が目指している研究です。

研究成果である浅海底の精密地形図を基に、次世代の研究課題を発見していく

のです。

研究室の魅力を教えてください。

浅海底分野は未踏査の部分が多く、社会の認識を変えるなどの発見ができるというポテンシャルを持つ分野です。独自に作成した海底地形図をベースに、地質学、生物学、考古学、人文地理学、海岸工学などの研究を重ねることで、独自の研究が展開できます。これらは防災や水域環境の管理に利用できる地図にもなるでしょう。卒業生は将来、研究者として進む道があれば技術を身につけて調査関係の仕事を活躍することもできるでしょう。沿岸の浅海底地形情報を探査しようという時代の流れの中、海底地形を観光資源にしようとすると世界はさらに広がると思われます。近頃は、学生のフィールド離れが懸念されていますが、野外調査で

は人間の想像を超えた場面と遭遇することもあります。自然の中では人の知識や理解が限られた範囲にとどまることを思い知らせてくれることだけてあります。だからこそ、野外調査はとても楽しいものです。このワクワクする気持ちをぜひ知って欲しいと思います。

共創学部では何を学べますか。

共創学部には、理系や文系系の枠にとらわれず課題を解決するためにいろいろな専門分野を持つ人が協力しそう、分野に限らず学際的に物事を考えようというコンセプトがあります。最先端の研究を進める九州大学を舞台に、異なる専門分野の間でどのようなコラボレーションが生まれるかも非常に楽しみなところです。新しく何かを生み出そうというバイオニア精神で一緒に学びましょう。